



コンファレンス コール議事録

GE-2008年度第1四半期収益コンファレンス コール

開催日時:2008年4月11日午前8時30分 (東部標準時)

本議事録の数字は予備的なもので監査を受けたものではありません。「本書には「見通し情報」 -

つまり、過去ではなく将来の見通しに関する情報が含まれています。その記載内容では、見通し情報は将来見込まれるビジネスや財務的業績に言及することが多く、「期待される」、「見込まれる」、「予定である」、「計画する」、「信じる」、「目指す」、「であろう」といった表現が使用されます。見通し情報では、その性格上、場合により程度は異なりますが、不確実な事項について述べられています。弊社の場合、良し悪しを問わず将来の結果に影響する可能性のある不確実性には以下のようなものがあります。金利や商品価格の変動を含む金融市場の動向、処理を含む、戦略的アクション、将来における買収事業の統合、航空・鉄道輸送、エネルギー（発生）、メディア、不動産・ヘルスケア事業を含むがこれらに限定されない取引先主要産業の将来の財務的業績、弊社保険事業における予想に反する損失発生、その他、政治・経済・ビジネス・競合・規制関連の全国、地方、および国際的な規模での要因これらの不確実性により、将来における実績はこの見通し情報で述べられているものとは実質的に異なるものとなる可能性があります。弊社では見通し情報の更新を行う責任は負いません。」

結果は記載される場合を除き継続事業における事業基準に基づき話し合われています。

GE 出席者**ダン・ジャンキ**

GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ジェフ・イメルト

GE - CEO

キース・シェリン

GE - CFO

コンファレンス コール出席者**ジェフ・スプレーグ様**

シティグループ - アナリスト

ディーン・ドレー様

ゴールドマン サックス社 - アナリスト

スティーブ・テューサ様

JPモルガン社 - アナリスト

ロバート・コーネル様

リーマン ブラザーズ社 - アナリスト

スコット・デーヴィス様

モーガン スタンリー社 - アナリスト

ニコル・パレント様

クレジット スイス社 - アナリスト

ジョン・インチ様

メリル・リンチ - アナリスト

アン・ドゥイグナン様

ベア・スターンズ - アナリスト

ニゲール・コー様

ドイツ銀行 - アナリスト

プレゼンテーション**オペレーター**

皆様、本日はGEの2008年度第1四半期収益に関するコンファレンス・コールにご出席いただきありがとうございます。この度、ご参加いただく皆様は聞き取りのみ可能となっております。私、本日コーディネーターを担当いたしますメラニーと申します。(オペレーターからの説明)なお、本会議の内容は録音されます。引き続き、本日の会議主催者であり、インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデントであるダン・ジャンキ氏に進行をお願いします。では、よろしく願いいたします。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

メラニー、ありがとうございます。まず、第1四半期収益コンファレンスコールにご参加いただきありがとうございます。今日のプレゼンテーション資料、プレスリリース、補足資料はwww.ge.com/investorで閲覧できます。本日のプレゼンテーションには現在の状況から判断した今後の世界および経済環境に関する見通し情報が含まれます。

今日は弊社の第1四半期の結果と第2四半期と年間の見通しを見て行く予定で、このために弊社CEOのジェフ・イメルト、CFOキース・シェリンをお迎えしています。ではジェフ、よろしく願いいたします。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ダン、ありがとう。皆さん、おはようございます。まず初めに、当期の業績は残念な結果となりました。弊社は主に、といってもそれだけではありませんが、金融サービスが原因となってガイダンスを達成することができませんでした。しかし依然として明るい要素も幾つかあります。グローバルでは大変好調で、新興市場においては22%増でした。また米国を除く先進国でも堅調でしたが、第一四半期には米国の景気減退が問題となりました。

インダストリアル事業の収益は大幅に増加しています。これは一般的に好調が続けたインフラストラクチャー事業に牽引されています。一方、金融サービスの市況はかなり厳しく、第1四半期末にはさらに困難な状況に至り、コマースファイナンス事業およびGE Moneyは約20%減となりました。

12月の厳しい市況のために弊社は計画を立てておりました。我々のおかれる市況、特に金融サービスがこの四半期の間にさらに困難な状況に至っています。ここで弊社の試み、キースの方からこれからご説明申し上げることは、弊社は今日の世界の状況と3月の時点での金融サービスにおける幾つか課題に基づき、通期の収支を再編成したということです。

第1四半期に関する3つの基本事項について今からご説明させていただきます。まずガイダンスとの比較です。ここ数年着実にガイダンスを達成し、好調が続いていたコマースファイナンスですが、減益と時価評価損によって1株当たり利益に約0.05ドルの影響が生じています。ヘルスケア部門も、OECでは出荷が行われず、C&Iは家電市場の混乱があったため、向かい風が生じました。

弊社は厳しい市況にむけて計画を立てていました。我々は市況が混乱することを計画に入れていましたが、今四半期には間に合わなかったとも言えます。特にペアー・スターズ社の問題で、資産売却と評価損の発生を計上する我が社の能力に大きな混乱が生じました。これは弊社が四半期末まで明確に予測できなかったことです。

また3月には米国ヘルスケアとC&I市場が鈍化しました。ここで弊社が行ったことは、同問題の言い訳を作るかわりに、よく考慮して適切な行動を起こす努力をしたということです。私たちはこの2〜3週間で事業すべての見直しを行いました。そして、来期に向けて経営調整を行いました。弊社には依然として力強い基盤があります。グローバルの成長は好調です。インフラストラクチャー部門も多額の受注残高があり、力強い生産性プログラムと貸対照表を備え、インダストリアル事業のキャッシュフローも良好です。

弊社は今後も力強い戦略と基盤は維持するものと考えておりますが、2008年以降のガイダンスは、現市場の現実を反映させて再検討するのが賢明と思われる。この後キースの方からは主に、インダストリアル事業の収益が依然として10%から15%増のところ、金融サービス収益は5%から10%減であるという見通しについて詳しくご説明させていただきます。したがって通年では改善の見込みなしと見ております。弊社は現市況を適切に反映させており、全体的な改善は考慮しておりません。

主な業績指標を見ると、受注額8%増、収益8%増、資産20%増と同四半期の成長は大変力強いものです。産業分野事業の売上内部成長率は5%、金融サービス事業では7%減で、価格上昇と減益による取引高減少に基づいています。先ほどお話ししたように、EPSは見通しを下回り、ガイダンスを達成することはできませんでした。

利益率は18.1%で前年比横ばいでした。マージンは前年を下回りました。価格設定において優れた生産性を達成しましたが、設備とサービスの構成およびヘルスケアの全体的な収益減少によって、同四半期の利益率全体が大幅に減少しました。またキャッシュはインダストリアル事業キャッシュフロー8%の成長により堅調で、今後通期で続くと考えられます。全体的にみると、この厳しい市況において業績はまちまちであり、その詳細についてはこれからキースに説明してもらいます。

キース・シェリン - GE-CFO

ありがとう、ジェフ。

ず受注から始めましょう。

続き受注は大変好調です。左側は主要設備・機器の受注額です。第1四半期の主要設備・機器の受注額は120億ドルで11%増です。これらの受注額は四半期ベースでは常に波があります。この点はアビエーションでおわかり頂けると思います。第4四半期では66%増でした。しかし第1四半期では21%減となりました。アビエーション事業は商用エンジンの中で厳しい比較対象となりました。しかし21%減といっても、受注の絶対値は依然として受注残高を築いています。受注額は出荷額に比べ1.3倍となりました。

エネルギー事業は今四半期またしても好調で、59%増でした。弊社の火力発電の受注は125%増でした。風力発電の受注は40%増でした。石油、ガス、輸送事業も不安定でしたが、どちらも受注を増やし、最終的には受注残高を築きました。最後にインフラストラクチャー事業の合計を見ていただくと、主要設備・機器の受注額合計の中のインフラストラクチャー事業は15%増の93億ドルで、受注残高は468億ドルまで成長しました。前年比48%増です。

弊社のインフラストラクチャー事業部門は、引き続き素晴らしい業績をあげています。これは四半期平均の表に見られる125億ドルという受注額の絶対値だけでなく、受注残高も含まれています。これは、同じく四半期平均の表上の通り、出荷額は98億ドルで、つまり四半期に受注額30～40億ドル程が加算されているわけです。

これらの受注額が踊り場の状況にあっても、今後数年は成長を維持し、インフラストラクチャー事業による主要設備・機器の受注額は良好な業績となるでしょう。

中心の欄をご覧くださいと、サービス事業の受注額は5%増の83億ドルでした。軍事産業の好調により、アビエーション事業は4%増でした。商用部品の受注額は一日当たり1970万ドルで、前年比2%増の1930万ドルでした。エネルギーサービス事業の発注額は2%減です。これは原子力発電サービスでのタイミングに起因します。受注額は29%減です。パワージェン社のサービスは9%増で、後に売上高のところでご説明致しますが、好調な四半期となりました。

石油、ガス事業は大変好調です。今四半期のヘルスケア事業はサービスが堅調でした。右側は弊社の電力の受注額ですが、同四半期で2%減の39億ドルでした。これは内部成長によるもので、海外受注による有利な解釈ではありません。これは現地通貨で示されます。

ご覧の通り、家電事業は厳しい市場でした。これは主に米国内です。小売が5%減、契約、建設経路が14%減で家電全体で6%の減少となり、エンタープライズソリューション事業はセンシング、インスペクションテクノロジー、デジタルエネルギーが好調で3%増となりました。よって弊社のインフラストラクチャー事業受注額は引き続き弊社の強みとなりました。電力は厳しい市況にありますが、今後も受注残高を築き続け、インダストリアル事業の見通しは上向きです。

それでは第1四半期の概要から始めさせて頂き、インダストリアル事業、そして金融事業の順でご説明いたします。左側は事業の概要です。

売上高は 8%増の42
億ドルでした。インダストリアル事業の販売は12%増の24億ドルでした。売上高が低いのは金融サービスの方でした。収益は44億ドルで12%減少、EPSも0.44ドルと8%の減少で、報告ベースの合計では非継続事業の影響を含め2%減となります。キャッシュフローは49億ドルで、GEキャピタルの特別配当によって前年比減となりました。これについては後ほどキャッシュのページでご覧頂けます。インダストリアル事業のキャッシュフロー(CFOA)は8%増の37億ドルでした。

税金についてはご覧の通り、同四半期の連結ベースの課税率は16%でした。これは前年比で4ポイントのマイナスです。また、ご覧の通り、今四半期の税率の低さは全て、GEキャピタルの3%によるものです。資本比率は、米国の税込み収益の減少により3%となりました。これは主に値洗いのマイナスの影響、そしてジェフが先に触れました減益が原因です。米国の収益は弊社の平均値よりは更に高い税率で課税されているため、これらの減益が平均税率を引き下げる結果となりました。よって通期でみると、弊社の今回のガイダンスは第1四半期の16%に沿った税率で、前年比横ばいとなります。

そして右側には業績がご覧頂けます。事業ごとに見て行きます。四半期全体では、部門の利益は63億ドルと、弊社のガイダンスに対し6億ドルのマイナスとなりました。このマイナスはジェフが話した通り、主にコマーシャルファイナンス、そしてその残りはヘルスケア事業とインダストリアル事業によるものです。ですから、実際には問題の対象は二つあります。より厳しい資本市場は、弊社の金融サービス事業に影響を与えています。この点と、米国の景気減退によって我が社の業績が圧迫したことについて、詳しくご説明いたします。

今回はいつもとは少々異なる順番で始めます。まずインダストリアル事業の概要から始め、詳しく見てから、金融事業に移りたいと思います。なぜなら、この二つは同四半期に異なる展開をみせているからです。インダストリアル事業の左側をご覧くださいと、同事業の純利益は前年比26%増です。これには、金融サービスの影響は全く含まれていません。

次に部門ベースでは、会社全体の影響を含まない4つの事業を見ると、純利益は約12%増でした。しかし今年は前年に比べ事業編成費用やその他企業コストが減少し、報告ベースの純利益は26%まで引き上げました。これはグローバルな事業活動による大幅な利益成長によるものです。利益は12%増、内部で5%増、グローバルでは28%増でした。サービス事業は堅調です。

右側は事業別の牽引要因です。これらのページを事業ごとに見て行きますが、インフラストラクチャー事業は好調な四半期となりました。NBCUIは引き続き、高収益性を伴う堅調な成長を収めました。ヘルスケア事業にとっては困難な四半期で、厳しい比較対象となりました。同点については、ヘルスケア事業のページで改めてご説明します。インダストリアル事業については、エンタープライズソリューションは好調な一方、C&I向け市場は大変困難な状況という混和状態でした。それでは詳しくご説明致します。

それでは、インフラストラクチャー事業から始めさせて頂きます。インフラストラクチャー事業にとっては、又しても好調な四半期となりました。売上高は23%増の149億ドルでした。部門の利益は17%増で、26億ドルでした。主な事業の業績は左下に挙げられていますが、左の一番下のボックスをご覧ください。金融サービスの垂直事業による影響を含まないインダストリアル事業全体では、売上高及び部門別利益ともともに21%増となり、又しても大変好調な四半期でした。

右側は、事業のダイナミックスのいくつかですが、まずはアビエーションから始めて、エネルギー、そしてインフラストラクチャー事業のまとめを致します。アビエーションは売上高が25%増で部門の利益は11%増でした。売上高はスミス社以外で8%増でした。受注合計額は先に申し上げ

げた通り、11%減の51億ドルでした。商用エンジンの受注額は15億ドルです。これは50%減となりますが、これは今四半期は前年度に比べGE 90およびGEnxにおいて非常に厳しい比較となったためです。しかしそれでも今四半期では120機を超えるGEnxの受注を加え、軍用エンジンの受注は52%増でした。

製品の受注残高も成長を続けています。今四半期を51%増の193億ドルで終え、弊社はエンジンをさらに出荷しながら受注残高を築き続けています。先ほど申し上げた通り、売上高は43億ドルの25%増でした。商業用エンジンの売上高は10%増です。今年の商用エンジンの出荷は、前年から更に35機増えています。サービスの売上高は6%増でした。この中では、コマーシャルが3%減となっています。同四半期では部品が大変好調で、前年度の1日当たり1750万ドルから1940万ドルの11%増となりましたが、これは前年との厳しい比較に対する契約サービスのマイナスによって相殺されました。

軍用エンジンは18%増となり、スミス社が売上高のおよそ18ポイントの約6億ドル近くを増加させています。営業利益はスミス社の7%増に牽引されて11%増で、中核事業は4%増でした。厳しい比較にも拘らず、かなり堅調な四半期となりました。

次はエネルギー事業です。エネルギーは非常に好調です。エネルギーの売上高は21%増、部門の利益は32%増でした。受注額合計も引き続き素晴らしいものがあります。今四半期の受注額は30%増の48億ドルでした。主要設備・機器の受注額も60%増で、十分な受注残高を築いています。火力発電の受注額は125%増の22億ドルでした。ガスタービンの受注は前年度の
33 基に対して今年
38 基です。弊社が管理している火力発電事業の受注残高は最高74億ドルで、1年前に比べ100%増です。風力発電事業も好調が続いています。風力発電事業の受注額は40%増の18億ドルで、受注残高は現在120億ドルに及び、これは前年度第1四半期の2倍以上に相応します。

全般的には、パワージェン社の受注額は価格の上昇もあり今四半期は4%増で、今後も好調が見込まれます。同四半期の売上高は21%増の56億ドルで、これは火力発電事業によって牽引されています。火力発電事業の売上高は33%増となりました。弊社は今四半期にガスタービンを36基出荷しており、前年の28基に比べ増加しています。風力発電タービンは前年の524基に対し569基を出荷し、サービスの売上高は11%増となりました。これにより営業利益は32%増で、パワージェン社の取引高と価格によって牽引されました。全体的に見ても広い層に基盤をもった優れた四半期となりました。

石油・ガス、輸送事業はともに力強い業績をあげ、垂直事業の資産の質も引き続き素晴らしいものがありました。この2つの事業では収益を伴わない資産はありません。したがって全体としてインフラストラクチャー事業部門は引き続き弊社の強みであり、これはグローバルな需要の急増に基づくものです。

次はヘルスケア事業です。ヘルスケアはジェフが先に触れた通り、市場においても比較的面でも厳しい四半期となりました。厳しい比較となったのは、前年度に弊社は売上高認識方法を、引き渡し時から出荷時に変更したためです。これを第3四半期に行われました。それ以前の四半期についてはこれを反映させるために修正しています。ここで報告ベースの業績を見ると、売上高39億ドルは横ばいで、部門の収益は5280万ドルでの17%減と報告されています。報告ベースの差異は、実際の事業の業績に比べかなり悪く見えます。

考え方としては、このページの下の脚注Aの通り、昨年の収益認識方法の変更によって、2007年の第1四半期の売上高は2540万ドル、営業利益が1170万ドル足されています。基本的には、2006年第4四半期には売上高として記録されていた出荷額は引き渡し時に変更されたため、2007年の第1四半期に繰り越されています。これに関わる営業活動はなく、これは会計上の処置にすぎません。この変化による影響を調節すると、同事業は営業利益においてほぼ横ばいです。したがってVは事業という点では実際より悪く見えます。

これは市場にも現れています。コマーシャルの動向から始めると、受注額は2%増でした。サービスは8%増、設備・機器は1%減でした。依然として設備・機器市場は大変厳しい状況にあります。CTIは15%減、MRは8%増、X線は5%減で、アメリカ大陸においてはアメリカ大陸DIが13%減でした。DRAに対してはかなり厳しい比較があります。2007年に組み込まれる受注残高があり、グローバルでは5%増でした。ここでも同じ状況で、グローバルは大変好調、米国市場はより厳しい状況です。

サービスについては、受注残高は7%増の21億ドルでした。弊社はHCAと長期のサービス協定を結び、DIとBiometではともに5年のサービス契約と、サービスの業績は大変好調でした。右側には、弊社のガイダンスに対する弊社が影響を受けたダイナミクスが示されています。まず、ジェフが述べたようにOECから出荷できないことは残念なことです。弊社は20ヶ月間に及び同件に取り組んでいます。現在弊社は厳しいプロセスにあります。弊社の義務はすべて完了し、FDAからの回答に取り組むところです。これらの出荷が完了できなかったのは、弊社の見直しから5ポイント減の影響となりました。我々としては4月の出荷を期待し、最終段階を切り抜けなければなりません。

しかしこの四半期に影響を与えた最大の要因は予測以上に厳しい米国市場で、見直しから約15ポイント減としています。Vの値は実際よりも悪く見えますが、市場での弊社の動向が原因となってガイダンスを下回る結果になりました。

ヘルスケア事業においては、引き続きグローバル市場が好調です。グローバルの設備・機器の売上高は力強さを見せました。DIは世界で8%増、臨床システムは世界で13%増、ヨーロッパのライフサイエンスは24%増、サービスは9%増と、素晴らしい展開振ります。ヘルスケア事業は厳しい米国の市場状況によってガイダンスを下回りましたが、依然としたグローバルの伸びによって相殺されています。

インダストリアル事業全般としては、厳しい四半期となりました。売上高は1%増、部門の利益は16%減でした。先にも述べたように、コンシューマ & インダストリアル事業とエンタープライズソリューション事業を分ける必要があります。左側の弊社が取り組んでいるコマースの動向をご覧ください。米国の家電産業の中核はユニットで10%減となり、第1四半期で合計18%減となりました。中核事業は1月と2月で9%減で、3月にはさらに下がり11%減となりました。

皆様もご存知の住宅問題が弊社の契約経路、建設経路にかなりの影響を与えています。C&Iとエンタープライズソリューション事業の両方におけるグローバルな成長によって、引き続き部分的に相殺されています。米国の受注額は5%減、アジア・ラテンアメリカは20%増でした。

右側をご覧ください、エンタープライズソリューション事業にとっては大変好調な四半期であったことがおわかり頂けます。売上高は8%増、部門の利益は15%増で、これはセンシング、インスペクション、デジタルエネルギーの成長によるもので、今後も続くと考えられます。しかしこれは、コマース、コンシューマ及びインダストリアル分野の重圧を相殺することはできませんでした。原料に関するインフレ懸念には対応しています。弊社は価格を上昇させ、四半期にはプラスに転じました。1株当たりおよそ1ポイント下回り、インフレのすべてを相殺することはできませんでした。

コストに関しても様々な対処を行っています。基本コストを下げ、月給社員数を削減するなど、C&Iではこの市場状況に対処するため数多くの事業編成を行っています。そして米国の厳しい市場状況においても実行しています。コンシューマ市場、特にC&Iは厳しい状況にあり、同分野のグローバルの力強い成長による恩恵を受けることがあります。

次はNBCです。NBC

は6期連続で、収益においてプラス成長を収めています。売上高は3%増の36億ドル、分野の利益は3%増の7億1200万ドルと、かなりよい業績です。NBCを細かく見ると、基本的には今四半期のネットワークとローカルステーションの売上高は横ばいでしたが、営業利益は3%増となりました。よって弊社の番組はかなり好調といえるでしょう。プライムタイムを2位で終わることが予想されます。

弊社のプライムタイムの視聴率は2.8%で、前年度の3%以内で、これは他のネットワークと前年比で最高値を示しています。これを引き続き改善することも可能ですが、現時点でのチームの達成度に満足しています。NBCUが製作したコンテンツが同四半期に大きく貢献しました。弊社製作の「ヒーロー」や「ハウス」、「30ロック」などのDVDの売上が好調でした。ネットワークでこれを相殺したのは、厳しいローカル市場によるものです。今四半期のローカルの広告費はおよそ11%減で、これは厳しい状況にあることを示しています。

ここでの明るい兆しと強みは、引き続きエンターテインメントとインフォメーションケーブルです。これらは又しても好調な四半期となりました。今四半期に「USA」は7回連続で第1位となり、視聴者総数と全てのデモにおいて勝ち続けています。またUSAだけでなくBravoやSci Fiによる素晴らしい結果によって、同分野は2桁台の利益成長が達成することができました。インフォメーションケーブルチャンネルも堅調です。今四半期にMSNBCは過去6年間で最高の視聴率を記録しています。CNBC Business Dayの視聴率も過去7年間の最高と、同分野全体が順調です。

映画もアワードショーが好調で、大変力強い四半期となりました。営業利益は2桁増で、主に今年のDVDによって牽引されています。「アメリカン・ギャングスター」と「アトメント」は前年度に比べかなりよい結果で、パークでも1月、2月ともに観客数と消費もそれなりでした。しかし3月は予測を多少下回っているため、今後も動向が気になるところです。

デジタルではHuluの個人消費者向け版を発表しました。これは評価も高く、弊社のデジタル収益は同四半期で5%増となりました。したがってNBCUチームにとっては順調な四半期となりました。

そして最後はインダストリアル事業について、もう1ページあります。弊社は経営規律に焦点をおきながら会社を運営しています。左側の弊社の営業利益率をご覧ください、今四半期は70ベースポイント減となっています。ここは少々中味を見ていく必要があります。弊社の成長と営業利益ですが、引き続きドル建ての営業利益は増加しています。このプラスの側で、差異の項目をご覧くださいと弊社の価格設定はインフレを相殺する以上になっています。生産性は向上しています。弊社はコスト構造に一生懸命取り組んでおり、同じ、またはより少ない投入でより多く産出できるようになっています。

こちらには今後の機会に繋がる二つの押下げ要因があります。まず設備・機器サービスのミックスですが、マージンの低いサービスに対し、設備・機器は3倍増となっています。これは、今後も引き続きインストールベースで作る弊社にとっては将来的なチャンスです。弊社は現在コスト構造に取り組んでおり、今後これらの営業利益率を引き上げるので、弊社の買収事業（特にベトコ社及びスミス社関連のインフラストラクチャー事業）の営業利益が低いということは、我々にとって差なる好機であるといえます。もう一方ですが、ヘルスケア事業ではやることが多々あります。今四半期では50ベースポイントの押下げ要因となりました。ダイナミクスをご覧くださいとおわかりになるように、現時点では、通年で前年比横ばいの約16.6%の見通しです。しかし、これは今後の売上高と営業利益の堅調な伸びが前提となります。

中心をご覧ください。第1四半期の結果として我々は全チームと見直しを始めています。弊社は更に6億ドル分の基本コストを引き当てています。基本コストの収支から更に3%の削減となります。つまり、我々は予想以上に厳しい現市況に対して様々な対応をしております。右側をご覧ください。弊社は純利益の増加に専念しています。今四半期のキャッシュフローは計画をわずかに上回る8%増でしたが、インダストリアル側ではサイクルタイムとリーンの良好な活動が多々あり、集金の改善にも専念しているため、通年の10%に向けて順調といえます。後にキャ

ツッシュに関するページで改めてご説明致しますが、弊社は好調なスタートを切りました。我々は数多くの経営規律による企業経営を行っており、現在は困難な市況にあることを理解しなければなりません。

それでは金融サービスに移りましょう。皆様もご存知の通り、金融市場における問題があります。多額の直接償却が発生しています。これにより大幅な資本投入が必要とされます。GE

Capitalでは他の金融機関のような直接的な被害は受けていません。しかし市場で続くレバレッジ効果が、グローバルの商業活動を減速させていることをご理解ください。この状況をお見せするために、幾つかの指標を同表の下半分に表示しております。グローバルの商用不動産の売上は四半期で2500億ドル以上でしたが、第1四半期では60%減の大幅な減速が見られます。

レバレッジローン市場は第1四半期に急下落しています。大型設備投資は第4四半期に下落しまして、中間市場は持続しているものと減速したものが混合している状態です。米国の設備投資支出も減速し、弊社の電力事業に多少の影響を与えています。そしてこのページにはありませんが、先ほどジェフが触れたベアー・スターンズ社の破綻と企業買収によって、弊社の予測以上に3月下旬の資本市場に変動が生じました。

つまり、かなり厳しい市況にあります。GE

Capitalは優れた不動産資産を所有しています。弊社の引受け業務は素晴らしいものがあります。弊社は引受け業務と危機管理、リスク分散についての経営規律を遵守していますが、それでもこのような資本市場の変動性から完全な免疫があるわけではありません。

さて次のページですが、金融サービス関連では数々のプラス要素があります。悲観的な先行きというわけではありません。弊社のファンドは大変良好です。弊社は第1四半期に350億ドルの長期負債を発行しています。通年の弊社の計画を上回っています。弊社の商業ペーパーの需要は高く、スプレッドは縮小、CDSのスワップレートの関係はより正常化しています。これらはすべてよい知らせであると考えます。

弊社の新規事業のマージンは改善の方向です。右側をご覧頂くとお分かり頂けるように、第1四半期には売上高のスプレッドが拡大しています。我々には資本を高い還元率で運用したり、資産の引き受け業務や理解が可能な不動産資産の評価額に占める債務の割合が低いシニア担保付債務を運用する機会があります。弊社はこれを実行しており、将来的には改善が見られるはずで

そして債権です。債権は予想通り堅実なものとなっています。商業ファイナンスの支払延滞率(30日以内)は1.36%です。これは一年前に比べ10ベースポイントの増加です。これらは弊社の過去最低レベルで、ポートフォリオの質は引き続き非常に高くなっています。GE Moneyの支払延滞率は計画通りであり、これについてはGE

Moneyのページで説明致しますが、弊社の問題の1つは資本市場と利益が予想以上に厳しいものであったということです。この影響については次のページで取り上げます。

したがって弊社は金融サービスの再構築を続けています。再配備の目標500億ドルに向けて順調です。弊社はメリルリンチ・キャピタルとの取引を締結しました。さらには、イタリアの商業事業における欧州の商用プラットフォームに関するLOIを締結しています。また、第1四半期には法人カード事業を売却しています。相手先はアメリカン・エキスプレス社です。この影響を今から皆様にお見せします。弊社は小規模の幾つかのGE

Moneyヨーロッパの売却に関するLOIを結んでいます。我々はこれらがより大きなプレイヤーと提携するのが適切と考えております。また、弊社は米国のエクスポージャーに焦点をおいています。米国のPLCC事業の売却や、日本市場からの最終撤退も順調に進んでいます。したがって中核事業は依然として堅調で、投資および再配備による今後一層のプラス効果が期待されます。

これが第1四半期における金融事業の概要です。ガイダンスを下回ったのは、商業ファイナンスでした。ジェフが先に述べた通り、弊社の計画に対し評価損や減損が2億7000万ドルに及びます。これらは基本的に3つに分類されます。上場株、弊社が依然として所有する株式の一部を証券化したものによる保留利益評価、そして倉庫の値洗いの三種です。利益も計画を下回る結果となりました。同四半期には、不動産事業からの1億ドル以上の利益が組み込まれず、また弊社が取組中の他の資産売却も完了しませんでした。不動産取引の中には4月にすでに完了したものもありますので、ある意味タイミングの問題とも言えます。

今はこれらが大きな押下げ要因となっています。その一方、先に述べた通り、資産の質は安定しています。弊社には魅力あるオリジネーションの機会が多々あり、GE Moneyと垂直事業ののどちらも見通しを達成しています。今からGE Moneyの状況を細かくご説明致しますが、商業ファイナンスはガイダンスを下回っています。ここで客観的にとらえることが大事かと思われる。弊社の金融サービス事業の純利益は依然として25億ドル以上、株式収益率は20%と、比較的堅調な業績です。しかしこれは弊社の予測を下回るもので、我々の期待には沿わず残念な結果となりました。

それではこれから2つの事業についてご説明致しますが、商業ファイナンスにとっては大変厳しい四半期でした。資産成長については引き続き好調でした。グローバルのオリジネーションも良好です。資産は報告ベースで27%増、FXを除くと19%増です。売上高は7%増、部門の利益は20%減の11億5800万ドルでした。

ここでは2つの押下げ要因がありました。1つ目は不動産です。不動産収益は同四半期で16%減で、これは不動産販売の減益によるものです。同四半期では資産17億ドルを売却しましたが、現在取り組み中で内部予測される更なる9億ドル程の販売は、今期実現しませんでした。ここでよいニュースは、弊社は不動産の売却を行っており、このうちの幾つかは完了して先にも申し上げた通り第2四半期に組み込まれます。弊社はこれらの利益の実現を続けますが、我々の期待を下回るレベルとなっており、それがこの第1四半期の結果です。

弊社は同四半期に56件の不動産を17億ドルで売却し、資産を70億ドル加えています。現在私たちは不動産ポートフォリオを再び混ぜています。この70億ドルの資産成長は、対象資産の評価額に占める債務の割合が70%で、株式収益率が25〜30%のシニア担保付債務の85%にあたります。従ってスプレッドで多額の利益を得る非常に確実な機会があります。弊社はこのポートフォリオの再編をうまく実行し、質の高いポートフォリオを維持しています。不動産で利益のない資産は0.38%に及ぶ未決済の売掛金です。ここでは債権問題はありません。支払延滞（30日以内）率は0.36%で、前年比で4ペーシスポイント減です。つまり債権は大変良好で、ポートフォリオや資産の質も優れています。

同四半期のキャピタル・ソリューションでは、大きな牽引要因はありません。収益は1%増でした。我々は中核資産を成長させ、ヨーロッパと日本でいくつかの買収を行っています。値洗いが幾つか行われ、キャピタル・ソリューション事業の保留利益の値洗いは1500万ドルに及びました。しかしコマースファイナンスの収支の収益はコーポレートファイナンスによって前年比を下回る結果となりました。41%減です。殆どの評価損がこちらに含まれます。

先ほど述べたようにこれは3つに分類されます。株式公開評価期間の終了時に対象市場に株式を評価している上場株式投資、弊社が株式を所有している債権の証券化における保留利益です。これはまさに弊社が運用するモデルです。そして残りの二つは倉庫の債務と、資産です。弊社は市場で売却する目的の融資引受け業務を数々行っていました。同四半期終わりにはこれらの値洗いをいくつか実行する必要があります。比較可能な商品の融資指標

では、年初に1ドルに対し約0.95ドルでしたが、四半期を通して1ドル当たり0.85ドルまで下がり、四半期末までに0.85ドルから0.88ドルの間となっています。これはつまりおよそ5500万ドルに及びます。

最大の値洗いは香港に上場している風力タービンギアの製造会社に対する4,000万ドルの評価損で、さらにFGICの普通株の償却で税引後が約3,600万ドルでした。弊社はさらなる市場減退の影響を受ける可能性があります。ジェフが話した通り、値洗いによる弊社のこの正常な価格変動は四半期ごとに25前後となります。第4四半期、そして第1四半期には5,000万ドルありましたが、ここにかけてかなりの急増でした。第2四半期に向けてこのような動きは予想されておられません。厳しい目で注意してきましたが、それでもここでは明らかに市場の急激な変動の影響をいくらか受けています。

第1四半期の引受け業務はかなりよい価格設定で行われています。これは大変よい知らせです。コマースのポートフォリオクオリティの質も先に述べたように引き続き安定しており、コマースファイナンスでコストを削減しているのでここでの中核はかなりよい状態ですが、それでも厳しい四半期となりました。

GE

Moneyにとっても厳しい四半期でした。しかしここでの違いは弊社の見通し通りであったことです。売上高は7%増の64億ドル、部門の利益は19%減の9億9500万ドルでした。さらに資産は21%増でした。実際には外国為替の換算による影響を除くと8%増です。よってヨーロッパではかなり堅調な中核成長を得ました。弊社、アメリカ大陸では前年比60億ドルの増収でしたが、年度末からおおよそ6%減です。ここではかなりの引受け業務が行われており、アメリカ大陸での弊社の成長は減速しています。

部門の利益は弊社の予測通りの19%減でした。これにはさまざまな要素があります。アメリカ大陸以外のグローバルの収益は15%増ですが、アメリカ大陸では50%減でした。証券化は減少しています。ご存知の通り、弊社は昨年第1四半期に更なる証券化を行い、これがWMC事業による損失を部分的に相殺しています。このWMC事業の損失は非継続事業となりました。証券化による利益は継続事業として扱われ、これは明らかにこのマイナスの要因となっています。

また同四半期にはアメリカ大陸において引当金が増加しました。これは弊社の計画にほぼ沿うものです。弊社は引当金は6億ドルに増加すると既に皆様にお伝えしております。同四半期では主にアメリカ大陸向けに約2億ドルが投じられています。この点については改めてご説明致します。そしてこれら両方の影響を、アメリカンエクスプレス社への法人カード事業売却による利益で部分的に相殺しました。これはGE Moneyの分野をご覧頂くと、証券化の減少と追加引当金に対して利益は2億1800万ドルであったことがお分かり頂けます。

右上にはGE

Moneyのポートフォリオの質と30日以上支払延滞率が見てとれます。支払延滞率の合計は5.64%で42ペーシスポイント増です。これらのほぼすべては北米での支払延滞の増加が原因となります。米国では100ペーシスポイント増で弊社の予測に沿うものでした。弊社はGE Moneyのポートフォリオのいくつかを再配置することで実際に進歩を遂げています。

先にも述べたように、法人カード事業を売却できたのはよいことでした。また弊社は、小欧州における小規模な既存プラットフォームの幾つかを売却する過程にあります。米国PLCCの売却も予定通りです。弊社にはデータルーム、銀行が1、2行、そして同件に興味を示している相手先もあります。日本の件は大変順

調です。ここでは多額のコスト削減が続きます。また、GE Money組織の本社の規模もかなり縮小しています。弊社はグローバル成長に向けた投資を行っていますが、今四半期の営業外費用は5%減に抑えています。また、国内の集金者を更に増加させています。つまり、我々のチームはこの厳しい市況でコスト削減に取り組んでおります。

次はキャッシュです。第1四半期のキャッシュフローは49億ドルでこれは計画通りでした。これは前年比減ですが、これはSwiss Re社株の売却によるGECSの特別配当が原因となっています。インダストリアル事業のキャッシュフローは8%で、弊社の内部計画をわずかに超えるものでした。右側にはその一覧が表示されています。キャッシュは67億ドルで始まっています。営業活動から生成されたキャッシュ49億ドルが加えられ、配当金の支払い分である30億ドルがマイナスされました。同四半期には株の買戻しに10億ドルが投じられました。

工場および設備・機器投資は約9億ドルです。同四半期には買収や売却は殆ど締結されていません。特に重要な要素ではありませんが、覚えている方もいらっしゃるかと思いますが、昨年に弊社は長期債を増やしております。弊社は四半期末にこれをインダストリアル事業側のコマースパーパーに引き当てています。従って弊社は昨年末のレベルから負債総額を減らし、同四半期のキャッシュは約50億ドルで終わりました。このスタートと、そしてこれからご説明するガイダンスの変更による調整をもって、通年の営業活動によるキャッシュフロー(CFOA)の損失額230億ドルに向けて順調なラインです。

四半期はこれで終わりです。これからジェフがお話したポイントの1つに話題を変えたいと思います。弊社はガイダンスを下回ったことを非常に残念に思っています。チームはこれを非常に真剣に受け止めております。これは弊社が常に誇りにしていることですが、今四半期は我々にとって大変厳しいものとなりました。ジェフの方からまず初めに、弊社は投資家の皆様に対して責任ある方法で、これらの第1四半期の問題を対処するフレームワークをまとめたことと申し上げています。弊社は今直面している現実すべてを反映し、マイナス面を把握するフレームワークを皆様に提示することを望んでいます。しかし、これには状況が改善される様子はありません。我々は過去10日間の間に全チームと共に詳細な事業の再評価を行いました。全ての一つ一つの活動において何が起きたのか、将来的には何を意味するのかが根底に入れられています。そしてこのフレームワークにはより変動性のある世界における更なる柔軟性のニーズが考慮されています。

この表は第1四半期に起きたこと、通年の収支の変更に関する弊社の見解、そしてその理由がわかるように構成されています。それではここで1つずつ見て行きましょう。ご覧の通り、当初のガイダンスでは10%増の2.42ドルでした。先ず、インフラストラクチャー事業です。同事業は依然として非常に堅調です。通年ベースで0.01ドルを加えています。20%増が見込まれます。

次にインダストリアル事業の収支を見ると、第1四半期はガイダンスを下回っています。我々はこれは同じペースで通年続くと考えておりません。今回の通年の見通しは低めの0.03~0.04ドルとするのが適切にリスク低減策とみております。先に述べたように、これまで各事業を見ております。引き続き米国市況の軟調が予想されますが、OECの実現による利益と、更なるコスト削減が行われるため、これは適切な値と考えています。

そして最後に金融サービスですが、この第1四半期にはガイダンスを下回る0.05ドルでしたが、こちらも同様です。今後の四半期では影響は軽減されると予測されます。何よりもまず、新規事業のマージンが好調です。弊社は今後も資本を絶好の機会に投じます。中核スプレッド事業に組み込まれる巨大な機会があり、我々はこれを続行します。一方、四半期の結果に基づく減益が予想され、おそらく不動産事業だけで通年で0.02~0.03ドル減が見込まれます。不動産は前年度23億ドルでしたが、同四半期では17%減です。不動産は通年で15~20%減の見込みで、ここでの大きな押下げ要因となっています。

米国のコンシューマ事業は市場の圧力を受け続けており、通年では引当金を投じる可能性もあります。また、我々がここで取り組んでいる問題の一つに、下期に期待されるPLCC売却の範囲があります。これが実現すると、PLCCによる0.04ドル程のEPSの影響、そして利益は結果として非継続事業として扱われる可能性が高くなります。したがって本日皆様にお伝えした広範囲に及ぶ一連のガイダンスを行って下期に改めて修正するよりも、今は通年のPLCCによる影響はおそらく0.04ドルの範囲が期待される、とだけ申し上げておきます。したがって0~5%増の2.20~2.30ドルというのが新たな範囲です。これは第1四半期の結果を反映した、現実的な見解と考えております。後に第2四半期についてご説明しますが、通年で見るとこれは適切にリスク低減です。今後も引き続き遂行させる必要があることを我々は理解し、それに向けて努力しております。

インフラストラクチャー事業は驚くほど好調です。弊社が信頼をおく事業であり、皆様にもそうして頂けると考えております。我々は残りのインダストリアル事業が、3月に見られた更に厳しい米国の市況、そして金融サービス向け資本市場における混乱振りを反映させるために調整を行っています。これが弊社に直面する現実です。

さて、第2四半期にはどのような影響があるでしょうか？ここで事業ごとに第2四半期を見ると、やはりインフラストラクチャー事業が引き続き堅調です。大幅な売上高増加が見込まれます。同部門の利益は20%以上の増加が期待され、幅広い力強さと優れた可視性を備えています。インフラストラクチャー事業は減速かと皆様はお尋ねになりますが、グローバルでご覧頂いていますでしょうか？これは受注残高に表れています。これらは通常2、3年は続くものです。グローバルな必要性に基づき、さらに長期に亘って続行する機会があります。エネルギーが必要となる米国のような場所、または世界の他社に先立たれた際に、航空会社が航空機を変える必要のある米国のような場所ではそれが実現可能です。よって、弊社にとっては非常に幅広い事業であり、短期の可視性は大変優れています。

コマーシャルファイナンスは、第1四半期の20%減に準じ、10%減としています。先ほど触れましたが、不動産の繰越がいくらかあります。先に申し上げた通り一部は売却されていますが、不動産ではすべきことが更にあります。第1四半期の評価損を繰り返すことはありません。また、より高い利益率を設定されているかなり堅調な成長もみられます。

GE

Moneyは第1四半期とほぼ変わらずの20%減で、引き続き厳しい状況です。米国市場による圧迫は更に悪化し、証券化も厳しい比較基準となります。第2四半期は第1四半期と同じような状態で、継続するグローバル成長によって相殺されることでしょう。したがって第1四半期とほぼ変わらずとお伝えしておきます。

ヘルスケア事業はOEC出荷を予定しており、第2四半期の比較は厳しいものではありません。営業利益を増やしながらVの値をマイナス17にした第1四半期のヘルスケア事業の調整は、2007年第2四半期には異なる方向に進みました。弊社はその変更によって2007年第2四半期の営業利益を4000万ドル減としたために、比較基準が低くなったというわけです。Vの値は第1四半期に比べ多少少に見えますが、これはOECやこの未収入金の変換によるもので、我々は弊社の状況にかなり自信を持っています。

NBCユニバーサルは第1四半期の業績を続け、インダストリアル事業は引き続きC&Iでプレッシャーを受けますが、エンタープライズソリューションでは堅調な伸びで厳しい比較にはなりません。

したがって会社全体としては、売上高は6%増の450億ドルとなるわけです。継続事業における収益は53～55億ドル、継続事業におけるEPSは0.53から0.55ドルで2%減～2%増と致します。

それではまとめに入ります。2008年通年の見直し変更の要約として、おさらいを致します。売上高は8%増の1870億ドル。これは少々マイナスです。収益は220億～230億ドルで、以前よりも落ち込みます。キャッシュフロー(CFOA)は230億ドル以上、インダストリアルは10%です。これらと総資本利益率の18%は弊社としては満足いく値です。右側には、各部門のV値の新たな見通しが示されています。インフラストラクチャー事業は依然として好調です。こちらには金融サービス事業における圧迫が反映されています。これらのVの値とともに合計で、GEインダストリアル事業の収益は通年で10～15%増でGEファイナンシャル事業は5～10%減の見通しです。よって0～5%増の2.20～2.30ドルの範囲です。

これが四半期の見直し、ガイダンスの変更による見直しで、我々の今後に対する見解であります。それではジェフに戻します。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

キース、ありがとう。要点を繰り返しますと、残念な業績でありました。投資家の皆様を失望させるのは本意ではありません。現在の市況と2008年第1四半期は弊社の予想以上に厳しいものでした。特に金融サービスの不調、そして今四半期の筋書きに遅れが生じたことが問題でした。しかし、弊社の成長は今四半期レベルまで鈍化しているわけではありません。

ビジネスモデルは依然として大変しっかりしていて、バランスシートも健全です。グローバルには大幅な成長もあり、受注も好調で、受注残高も高水準です。受注残高は34%増です。インフラストラクチャー事業には大変力強い弾みがあります。事業再編活動も活発に続けられています。キャッシュフローも高水準です。また、我々は配当金と自社株買いの計画に専念しています。したがって、弊社には数々の強みがあると考えています。本日の説明の通り、弊社は更に困難な市況に合わせ今年度を再構築し、ガイダンスは2.20～2.30ドルで、インダストリアルは10～15%増、金融サービスは5～10%減と致します。

これが四半期に関する最新情報です。質問に喜んでお答えいたします。弊社にはこの困難な2008年で遂行するための非常に強いコミットメントがあります。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

ありがとう、ジェフ。今からご質問を承りたいと思います。では、メラニー、お願いします。

質疑応答

オペレーター

(オペレーターからの説明)シティグループのジェフ・スプレーグ氏です。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

1つここで我々全員がこれから苦しむのは、御社が信頼できるベースラインにあるということをお納得することです。そこでいくつか理解できないことがあるのですが、利益減少が見込まれるというお話でしたが、通年ベースの収益の見通しの中で利益がどの程度重要なものであるか、ご説明いただけますか？

キース・シェリン - GE - CFO

明らかに、ここで最大なのは不動産だと思います、ジェフ。弊社の不動産の帳簿をご覧頂くと、資産の約50%が債務で、約50%が株式です。先程お伝えした通り、前年度の不動産事業の収益は23億ドルでした。この数字から15~20%程減少し、利益はおそらく前年度の60%程が見込まれます。したがって弊社は数々の不動産を売却中です。我々は過去に期待していた値を下げています。年初めには、弊社が所有する不動産において30億ドル以上の含み益がありました。グローバル市場は依然として頑強です。しかし、これらの収益の重要な部分であり続けるために、先のビジネスモデルの一部として弊社は不動産物件の売却に期待しています。と同時に、弊社が行っている全ての投資は再結合するための事業の負債側にあり、今後スプレッド事業の機会を得ることになります。我々はマイク・ニールとロン・プレスマン、そしてコマースファイナンスのチームと話し合いを行っています。弊社は明らかにこれに多大な時間を費やしています。これらの数字には、彼らが体験している市場のプレッシャーや今後の不動産事業に関する彼らの考えが考慮されています。第2四半期への可視性については、第2四半期の見通しを把握するために手を尽くしておりますし、コマースファイナンスに関してはこの点にかなりの自信があります。したがって四半期にするべきことは多々あり、通年では更にあります。一方、弊社は自分達のエクスポージャーがどのようなものであるかを把握していると思っております。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

私が申し上げたいのは、先ずインダストリアル事業をご覧頂くと、ガイダンスは10~15%で、これは主にインフラストラクチャー事業に牽引されるものです。根本から堅調で、受注残高の可視性も高いと考えております。また、ヘルスケア事業、C&I、NBCについてもキースの設計は、経済が多少悪化しても弊社は依然として適応可能である、ということを十分に反映されていると思います。

また金融サービス面では我々はランレートだけを見ています。第1四半期の市況が改善されるとは考えておりません。同計画を遂行することによって、コマースファイナンスよりも信頼を得ることが出来ると考えております。弊社は通年では良好な状態となります。

キース・シェリン - GE - CFO

ジェフがランレートについて触れていましたので、それについて。コマースファイナンスは第1四半期に11億5800万ドルを創出しています。第2四半期には11億7500万ドル前後が見込まれます。私はこれが考え抜かれた、よく考え抜かれた計画であると考えます。ジェフ、弊社は勿論、それ二度と起きないよう徹底する次第です。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

値洗いと減損の対象となる資産ベースの規模はどのようなものですか？航空機やその他の再評価に関するスケジュールは？同四半期には全く行われていませんよね。下期にこの幾つか実行することを検討されていますか？

キース・シェリン - GE - CFO

弊社はこれらがどうなるか様子を見守ると申し上げておきます。しかし現時点では航空機やその他の資産価値のようなものは、依然として著しく好調です。弊社はグローバルな需要に対して十分な航空機を用意することは不可能なので、それは期待されません。今日の状況に基づき年内に大々的に対処します。

一方、対象となるものは3つに分類されます。弊社は7億ドルに及ぶ上場株がありますが、これはP&Lによって値洗いされる取引分類です。これらの証券の変動性は通常10%増~10%減でしたが、前年度末から第1四半期にかけて45%減の証券が1つだけありました。これは中国の株式市場が最も大きな押下げ要因と考えられますが、この変動性はきわめて異例のものでした。

弊社は常に40~50億ドル程の倉庫証券を維持しています。現時点で、弊社が売却を始めた融資は40億ドルに及びます。これは市場モデルの低いコストです。同四半期の証券によって、0.95ドル減から0.85ドルと0.89ドルの間の値洗いでした。これはかなり劇的な動向でした。今現在、この数値は上回り、指標はその評価額を上回っているため、今後は様子を見ます。

そして保留利益についてですが、弊社が完了した証券化に関連するコマーシャルファイナンスの帳簿において保留利益は15億ドルに及びます。同じくこれは値洗いですが、債務の値洗いではありません、これは利回りの投資家がこのような証券の上昇を期待しているという事実に基づく値洗いであり、そのため割引キャッシュフローの現在価値は下がり、同四半期に5500万ドルとなりました。前年度末からスプレッドは、これらの証券化、またはキャッシュフローを何で割るかによって、400ベースポイントから1000ベースポイントまで幅が広がります。この劇的な値洗いは完全に市況に基づくものであり、基本的には弊社がこのような証券を満期まで所有する限り、利益を還元することができます。

これが3つの分類でした。弊社には保険事業において数々の投資有価証券を有します。減損は一時的な減損でないということの評価しなければなりません。弊社のこれらのポートフォリオには常に含み益や含み損があります。しかし、今四半期に変動性を与えているのはこれらの3つです。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ジェフ、再度申し上げますが、これらは別の方向に進む可能性もあります。しかし通年では改善は期待されません。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

それでは最後に1つだけ。特にMoneyでの引当金、そして金融ポートフォリオ全体に関して御社のガイダンスがどのようなものか教えて頂けますか？

キース・シェリン - GE - CFO

わかりました。コマーシャルファイナンスでは、それなりに大きな損失を伴う計画があります。それはそのまま、この見通しは変わっておりません。GE

Moneyではまず、引当金はグローバルな資産成長とともに拡大されていますが、主な引当金のプレッシャーは明らかにアメリカ大陸で見られます。年初および昨年末に申し上げた通り、更に6億ドルに及ぶ引当金が投じられます。このガイダンスでは、アメリカ大陸において通年で2、3億ドル増加される可能性があることを予測しています。第四半期には6億ドルの内、およそ2億ドルが当てられました。我々は支払延滞に基づき消費者の動向を見ます。ガイダンスでは更に投じられる可能性があることを考慮しています。

ジェフ・スプレーグ様 - シティグループ - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。

オペレーター

ゴールドマン・サックスのディーン・ドレー氏です。

ディーン・ドレー - ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

ありがとう。おはようございます。ジェフ、本日投資家が納得いかない点は、今回ガイダンスを誤ったタイミングです。なぜなら、先の3月13日の小売・投資家向けウェブキャストでは、ガイダンスを再確認され市況による影響はそれ程ではないといった話でした。これは四半期終了の2週間程前の話です。御社はこの時点で何をご存知であったのか、どのように状況が変化したのかについてご説明いただきたいのです。これは単に報告ラインだったのでしょうか。それとも2週間前にはこの重大さを認識できなかったということでしょうか？3月は四半期の50%ですので、タイミングの問題かもしれません。しかし3月13日の時点で把握されていたこと、そして私たちはそれをどう受け止めるべきかをご説明ください。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ディーン、我々はウェブキャストの前の週に通話会議を行っており、私自身も事業の詳細を検討しております。同時点では、四半期及び通年ベースで弊社は順調であると受け止めておりました。我々はこのような検討に多くの時間を費やしています。そしてウェブキャストの2日後の週末の間に、ベアー・スターンズの問題が明るみになりました。特に金融サービス事業では、3月下旬の二週間で全く違う世界に陥りました。そして先にも述べましたように、これを言い訳をするような会社にはなりたくありませんが、同四半期にガイダンスを誤ったコマーシャルファイナンスの5億ドル以上という額は、通常は実現可能な最後の2週間で取引不能状態に陥ったことが原因です。また、我々が基本的には四半期末に行う値洗いもすべてマイナスになってしまいました。これが我々が目にして体験したものの大部分を占めます。

ディーン・ドレー - ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

それでは、自社ブランドのクレジットカードの売却を含む御社が予測されるポートフォリオの動向に関する見直しには、クレジットの市況GE Moneyからコマースファイナンスへの移行によって御社が期待される金額が考慮されているとのこと、これらの見直しにタイミングや評価の変更はありましたか

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ディーン、あなたの質問を更に大きく展開してお答え致します。インダストリアル事業は好調で、その一方金融サービスは期待ほどの結果ではないため、金融サービスはGEの中でどのような存在かというご質問が、本日投資家の皆様からあることと思います。私から申し上げることは、基本的に弊社が過去数年の間に既存の保険事業、再保険事業、住宅保険事業から撤退することによって金融サービスのリスクを回避して参りました。我々は更なる債務スプレッドと一環したモデルを得るため同活動を続ける意向で、これらのラインに沿い続けます。

今回の法人カード事業の一件では、資産を好む戦略的な買い手がいる場合、同市場で配膳として大変有利な取引が可能であるということを示しています。よって、サンタンデル社とのスワップについても私は満足しております。またAMEXとの取引にも満足しています。PLCCは独特な資産である為、かなりの利益が期待されます。我々は利益率拡のために再配備し、事業リスクを回避し、現在の金融サービスにおける全体的な見直しを改善することを通年ペースで続ける予定です。

ディーン・ドレー - ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

自社株買いの方で変わったことはありますか？

また、これについてはどうお考えですか？御社には150億ドルのプログラムがあったと思いますが…。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ディーン、自社株買いと株主配当には手をつけておりません。今後更なる取引を経て、資本を再配置する最高の方法を探し続けます。

ディーン・ドレー - ゴールドマン・サックス社 - アナリスト

ありがとうございます。

オペレーター

JPモーガンのスティーブ・トゥサ様です。

スティーブ・トゥサ - JPモーガン社 - アナリスト

おはようございます。私はヘルスケア事業の結果を理解するのに苦しんでいます。厳しい比較水準について話されていましたが、年始に行われた第1四半期のガイダンスの時点で既にわかっていたことではないでしょうか？
というのは、実際のガイダンスに比べ非常に大きな差がありますよね。

ース・シェリン - GE - CFO

わかりました。これは二つの事項ににわけたいと思います。我々は確かに比較水準についてはわかっていました。私は、皆様が見られたことを確認するためにその説明を使ったにすぎません。第2四半期に5%増を予測しながら、17%減とははどうぞおかしく見えます。しかしこれは弊社がガイダンスを誤ったという事実とは全く異なる一件です。実際のところ、第1四半期の売上高で弊社の計画から約5000万ドルのマイナスとなった要因はOECです。またDRAも弊社の期待を下回る結果となりました。米国のDIの売上高は計画から約8〜9ポイント減でした。これはおそらく売上高にして約9000万ドルに相応します。また、経済による他の事業への余波が臨床システムにも見られ、3月にはコミュニティホスピタルからの受注が18%減少しています。これは資金調達能力による影響もあったと思われます。一方、売上高は約1億ドルに及んでいます。そうですね、最初のガイダンスをご覧頂くと、あなたのおっしゃる通りです、スティーブ。弊社は売上高のガイダンスを約2億5,000万ドルほど下回り、これが利益15%による営業利益にも誤りが生じる結果となりました。

スティーブ・トゥサ - JP モーガン社 - アナリスト

そうですね。DRAが影響を与えることが明らかであったにもかかわらず、御社は前年度もガイダンスを誤っていますよね。3月中旬、そして1年前または2、3年前に起きたことに関するディーンの見解に戻る形でありますが、全体的な内部成長の見通しがありました。御社は人々の注目を浴びる会社です。

ジェフ、そこでコメントを頂きたいのですが、御社のような巨大企業が自分を厳しい目で見て、既に予測されている、或いは必要な変更を行うかどうかにかかわらず、インフラストラクチャー事業で明らかに起きている幾つかの価値を明らかにするのは難しいといったGEのカルチャーのようなものがあるのでしょうか。というのは、これが御社のすごいところですが、事業や金融サービスにおけるこれらの問題に関する十分な可視性がないために、皆がおそらく焦点を当てていないもので相殺しているようなところがあります。過去数年に及ぶ御社の戦略について、改めて考え直すようなところはないのでしょうか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

スティーブ、私が思うに金融サービスの状況、そして今四半期の状態を見ると、我が社だけではありません。金融サービス市場は依然として振れの大きな状況にあります。3月の状態に比べ、我が社は明らかに異例な領域にいると思います。また、弊社の収益は弁解しているわけではありません。最終的には20%減ですが、業界比較では依然としてかなり力強いもので、弊社のビジネスモデルはいまだに強固であると考えております。

ヘルスケア事業での20ヶ月間に及ぶ工場の閉鎖は残念なことでした。特に市場自体が厳しい環境にある中、同工場を再開させるまでは弊社のヘルスケア事業の実績を見るのは難しいことです。

キース・シェリン - GE - CFO

コマーシャルファイナンスの業績は他に類似するものはありません、ジェフ。これを実行しているのは多大な信頼を得た事業チームです。彼らは10年以上継続して基本的にはコミットメントを達成し、リスクやチャンスを管理しています。これは、現在の混乱状態を考慮すれば見事な仕事振りとと言えます。

スティーブ・トゥサ - JP モーガン社 - アナリスト

そうですね。優れた金融サービスのフランチャイズですから、全く同感です。しかし、投資家を納得させるには至らないという印象です。驚くような要因はないと言っておきながら、利益不足や不動産による多少の利益があったような今四半期に至っています。特にこのような市況において投資家が御社が安全で成長株であると納得するのは困難です。これは御社が投資コミュニティに対して前面に出すバリュー・プロポジションの中核となるものです。

キース・シェリン - GE - CFO

スティーブ、弊社の強みはインフラストラクチャー事業における多額の受注残高だと思います。また、この5年から10年の間に収益を15%拡大させたヘルスケア事業も強みであると思います。弊社は世界一流のフランチャイズを企業全体で展開しています。我々は投資家の皆様を驚愕させたくはありません。弊社はこれまで行ってきたような成長率やマージンのより高い事業に投資するために、今後も引き続きポートフォリオを管理致します。我々は弊社にとって適切と思われる2008年の収支を設計しております。

皆様のご不満も理解しております。この点に関して守勢をとるわけではありませんが、企業全体の姿を見る必要があると思います。長期に及び、数々四半期で達成している会社です。弊社は5〜6年前に比べ多額の利益を上げています。また多額のキャッシュを創出しています。そして数多くの株を買い戻しています。弊社のフランチャイズは大変強力だと私は思っていますし、戦略についても同様です。

スティーブ・トゥサ - JP モーガン社 - アナリスト

どうもありがとうございました。

オペレーター

リーマン・ブラザーズのロバート・コーネル様です。

ロバート・コーネル - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

皆様、おはようございます。いくつかお聞きしたいことがあります。私はちょっと席を離れておりましたので、ディーンが既に質問したことかもしれません。ジェフ、あなたが言われたこと、いやお二人ともですが、3月後半に金融市場のストレスが増しましたよね。この点について、4月はどうに見られていますか？回復の兆し、それとも悪化しましたか？どのような様子でしょうか？

キース・シェリン - GE - CFO

先ほど申し上げたように、保留状態の不動産取引のいくつかを最終的に締結しています。これらは実現済です。最初の2週間では、四半期全体に結びつくような指標は殆どありません。レバレッジドローン市場の評価額はインデックスが0.90ドル以上の増加で、3月以来多少盛り返しています。これは1つの指標ですが、3月後半とは異なる市況とは言い難いものがあります。この異常な変動性は3月末になり明らかに落ち着いたと思いますが、幾つかの評価額に必ずしも役立つものではありませんでした。

ロバート・コーネル - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

先にジェフが同じ質問をしたかもしれません。既にこれについては返答済みかもしれませんが、もう少し深く掘らせてください。もし事態が3月中旬に説明され始めていたとしても、GEのようなグローバルな大企業では年次業績を作り直す十分な時間はなかったことでしょうか。どのようにして今回のガイダンスに至ったか、私達が理解できるように立て直しのプロセスについて教えて頂けますか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

了解しました、ボブ。我々は3月末に何が起きたかを見ています。我々は同四半期を切り抜く方法や今後の展望について、各事業チームと共に徹底的に話し合っています。インフラストラクチャー事業は簡単なものでした。ここでは力強さのみが見られました。具体的にお見せすることができます。通年の収支を更に増やすことができるか、気をつけて見ていきます。コマーシャルファイナンスチームは弊社の中でも最も力強い管理チームの1つであり、達成させています。私達は事業を検討する数々の方法を備えています。

このように、弊社が直面してきたことを根本から調べています。これは12月の我々の予測より厳しいもので、通年の筋書きを作り直し市況を考慮しています。ガイダンスを達成できなかったのは大変残念なことです。投資家を失望させるのは我々の本意ではなく、これを繰り返したくはありません。弊社は信頼あるフレームワークの構築を図っており、我々全員が真剣に受け止めていることです。

キース・シェリン - GE - CFO

このフレームワークをご覧頂くとわかるように、ボブ、弊社はジェフが申し上げたような会議や様々な分析、リスク管理計画を行いました。第1四半期では0.07ドル減です。我々はこの現実に応じなければなりません。第2四半期には、ガイダンスの範囲の中間点はコンセンサスを下回る0.04ドルが予想されます。したがって上期では約0.11ドル減で2.42~2.31ドルとします。上期には市場の変動性による幅と、先程あなたが触れられたPLCCの今後が考慮されています。ガイダンスでお伝える通り、通年ではこの値から0.04ドルのマイナスとします。いずれはそれが起きます。弊社はこの実現のため数多くのことを行う必要があります。我々は後日修正するのを避け、第1四半期を繰り返すことがないように現状と通年では何が改善されるか分析しています。弊社は3月末の市場に揺れによって回復不能であった幾つかの分野のリスク回避を図っています。現在我々はこれを実行しており、その結果同数値を下げることとなりました。我々はこの下方リスクへの対応を徹底させており、何もしていないわけではありません。

ロバート・コーネル - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

わかりました。誰もが米国の景気減退を話題にしています。これが2ヶ月間位なのか、2期または3期続くのか、どの程度深いものか。この見通しの構築に適用された経済背景を教えてください。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

改めてボブ、インフラストラクチャー事業は主にグローバルの需要と受注残高に牽引されています。NBC、C&Iおよびヘルスケア事業に至っては、今後も大変厳しい経済状況が続くことを我々は前提にしています。

キース・シェリン - GE - CFO

今まで以上に厳しい状況に陥る可能性があります。金融サービスでは、弊社にはランレートの可能性があります。金融サービスにおける最も厳しい四半期は過ぎたように思われます。弊社は必要な場合にベースラインを引き直すためのランレートを備えています。金融サービスの今後の動向については、弊社は適度に保守的であったと思います。

ロバート・コーネル - リーマン・ブラザーズ - アナリスト

わかりました。

オペレーター

モーガン・スタンリーのスコット・デービス様です。

スコット・デービス - モーガン・スタンリー社 - アナリスト

はい、皆さんおはようございます。火に油を注ぐつもりはありませんが、本日は誰にとっても厳しい1日となることと思います。しかし何処かが崩れているような気がします。御社の運転資本回転率を見ましたが、前年よりかなり悪化してマージンも残念な結果です。ここでは何が起きているのでしょうか？会社のカルチャー面で御社が抱えている問題について教えてくださいませんか？例えば、世界のカルフーンズのような御社の重要人物の退社が影響を与えているのでしょうか？これについての様子を少々教えてください。

キース・シェリン - GE - CFO

弊社の経営規律の一部を失うような傾向はなく、それは適切ではないと思います。弊社は数々の経営規律が確立された経営を行っています。我々は大変効果的に実行し、増益を続けています。今年のインダストリアル事業の予測をご覧ください、スコット。1,000億ドル企業から10〜15%程の増収ですよ。これはかなりよい業績だと思います。

我々は収益に沿ったキャッシュフローを創出し続けています。弊社のような規模の企業を成長させながら、運転資本を管理し、更なる発展に向けて資金調達することが可能で、さらには配当金の支払いや自社株買い、企業買収を行うためのキャッシュを創出するというは大変なことです。弊社は上級管理職チームによる事業委員会を月一回ペースで開催し、グローバルソーシングの状況、コストの観点から我々に影響する外部の要因、コスト構造の軽減、新製品が発表されているか、コスト状況が改善されているかについて検討しています。弊社は継続的に安全な数多くの経営メカニズムを備えています。ですから私自身は、弊社はかなりうまく実行していると感じております。

ただし弱点が1つあります。ヘルスケア事業は困難で、これを変える必要があります。工場閉鎖は我々の計算をかなりゆがめ、大変不運なことです。弊社は現在この最終段階で、一方同件以外は弊社はかなり良好な経営振りで数字を出していると思います。金融サービスでは対処が必要な混乱が生じています。過去にないこの変動性は、ジェフが言ったように弁解ではありませんが、これを弊社の経営・運営方法やこれらの事業の戦略的な位置づけ、- 私は非常に優れていると考えます - とは別に考える必要があると思います。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

スコット、弊社の設備・機器の売上高は、長期間に及びサービスの2〜3倍となっています。ここでは利益率が異常な程向かい風です。しかし、これは全てある時点で多額のサービス受注残高として戻ってきます。これについては謝罪するに至らないと思います。インフラストラクチャー事業は弊社の花形であり、現在の位置づけから依然として大変強固かつ堅調であることをご理解頂けると幸いです。

キース・シェリン - GE - CFO

1つのよい例として、ジェフ、風力発電事業があります。スコット、我々はマージンについて、インフラストラクチャー事業でマージン成長を得るかどうかについて数々の話し合いが行われています。ジョン・クレニッキから改めてこの件についてお話し致します。利益率が弊社の平均を

少々下回るというだけで、これらの風力発電設備の販売をやめるべきでしょうか？答えは勿論ノーです。我々はインストールベースで建設する必要があります。我々はこれら一つ、一つの注文を受ける必要があります。風力発電事業は営業利益が15%以内の増加で、年間20%以上伸びています。今弊社のマージンは風力発電事業の成長とともに率としては減少しているように見えますが、実際のところマージンの金額は更に増えていて、弊社にとって更なる利益となり、株主の皆様のためのキャッシュ生成に繋がります。

よって事業のミックスとしては、合計では利益率のプレッシャーが生じていますが、個々の事業や行われている事業活動は増収およびキャッシュ生成に間違いはありません。これが、絶対的な利益率と、将来の収益性を牽引する原動力を切り離さなければならないよい例だと思えます。

スコット・デービス - モーガン・スタンリー社 - アナリスト

そうですね。ただ私達にとってはグラニュラリティなしで業績の裏を知るの難しいことです。御社の年次書簡を昨日読み直してみましたが、この書簡を書かれたのは12月か1月頃かと想像しますが、その時の見通しの明るさからははかけ離れているような印象を受けました。御社のマージンや、運転資本、見通しや管理の能力を見ると、随分かけ離れている気がします。御社は言い訳をするような会社ではないとお話ですが、今回の会議通話は言い訳だらけという印象です。

私にはただ、GEが違って見えるのです。御社は厳しい時期こそGEが光り輝く時であるといつも話されており、年次書簡にも引用されています。ビジネスモデルの崩壊のようなものがあるのでしょうか。それから、ヘルスケア事業であったり、金融サービスであったりと、常に問題がありますよね。商品価格の状態を考慮すればインフラストラクチャー事業でさえもリスクだという話にもなりますよね。これはビジネスモデルを改める時期なのか、或いは何か問題があるのか、どうなのでしょう。

先ほどお聞きした質問ですが、このビジネスモデルは10年前にはうまく行ったが...といった型破りな考え方を阻むようなカルチャーの問題があるのかということです。御社は景気上昇サイクルで業績が下回って、今度は下降サイクルでも下回るペースですよ。つまり、きちんと機能しているようには見えません。私は質問をしているのか、コメントをしているのかわからなくなりましたが。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

スコット、過去5年間の継続事業は売上高13%増、14%の増収、強力なキャッシュ、積極的な自社株買い、利益率の拡大を達成しています。我々は前例のない金融サイクルに突入していますが、この状況においても弊社の収益は20%減と他の同業社に比べよい方で、弊社のコミットメントを通期ベースで達成する位置づけに向かっています。あなたのポイントは認めます。我々は弊社が備える戦略を引き続き遂行するべきで、それが今後我々の行うことです。

スコット・デービス - モーガン・スタンリー社 - アナリスト

わかりました。最後に1つだけ質問があります。株主としては、このビジネスモデルが機能するかどうかはどの時点で判断できるのでしょうか？私達としてはどの時点で期限を置くべきなのでしょう。例えば本年度末までに目標を達成できなかったら、戦略を考え直さなければいけないといったことです。GE

CapitalとGEインダストリアルはこれ以上一緒にすべきではないかもしれません。また、その他必要な変更があるかもしれません。この6年間株を担当していますが、毎年、シカゴ・カブスと同じような感じです。来年こそは、来年こそは、今やS&Pを下回るような年になりそうです。S&Pを大幅に上回るように見えたのですが...

そこで、株主の信用のために私達は御社をどのように評価すべきかということです。年末までうまくいかない場合、我々に変更する必要がありますのか、或いはまた翌年2009年にはよくなる、いや2010年にはと続くのでしょうか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

スコット、改めて、弊社がどのような状態にあっても、売上高、収益、利益、キャッシュフローを牽引することが問題です。本年度を終えた時に他にどのよう太刀打ちするかがわかります。しかし、弊社は収益を伸ばしており、価格収益率の圧縮がありました。弊社の信念は付加価値のあるポートフォリオ戦略の実行を続け、達成を続けることであり、それが我々が今後も行うことです。

スコット・デービス - モーガン・スタンリー社 - アナリスト

わかりました。責め立てて申し訳ありません。ただこの辺りの問題を明らかにしたかったので。

オペレーター

クレジット・スイスのニコル・パレント様です。

ニコル・パレント - クレジット・スイス社 - アナリスト

おはようございます。ジェフ、私達は皆理解に苦しんでいるところは、同四半期の不足額の内、クレジット市場に関連するのはどの程度のものかという点です。先程の質問に対する回答で、市況改善は前提にはしていないと話されていましたが、悪化するということですか？第1四半期の米国での5%減を引き合いに出されていたと思いますが、それでは第2四半期の見解はどのようなものでしょうか。プラスチック部門もなくなりました。過去に無い金融市場の混乱を考慮した上で、西ヨーロッパに関する御社の早期の読みはどの程度優れているのでしょうか。この混乱はヨーロッパや他の国に傷を広げると思われますか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ニコル、弊社は米国の家電事業やNBCなどにおいて、優れた初期警告システムを備えています。ヨーロッパに関して言えば、弊社の長期サイクルの基本事業では明らかな減速は見られません。したがって改めて申し上げますが、ガイダンスの範囲は今後も大変厳しい状態が続く米国経済を反映させています。インフラストラクチャー事業の部分を取り上げますと、基本的には今回の受注残高の一件が考慮され、価格設定が行われるところに出荷する能力を維持しています。改めて申し上げますが、我々には弊社が参入する市場においては世界経済の窓口があります。長期サイクルの事業は依然として我々の活動の大部分を占めています。また、これには米国外のヘルスケア事業も含まれます。

ニコル・パレント - クレジット・スイス社 - アナリスト

わかりました。ただ重箱の隅をつつくわけではありませんが、第1四半期に米国で5%減ということを踏まえて、通年でこの下降が続くと思われませんか？それとも更に悪化、または上向きに変わるのでしょうか？その辺りを詳しく教えていただけますか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

もう一度申し上げますと、家電事業やその他幾つかの事業については通年で比較もよくなると思いますが、現状を見ると改善されているとは申し上げられません。キースが米国コンシューマーについて話した件ですが、弊社はGE Moneyでは米国のコンシューマー事業の悪化を考慮しておりました。これが米国および米国経済に付いての考え方です。

ニコル・パレント - クレジット・スイス社 - アナリスト

わかりました。続けてもう1つだけ。ヘルスケア事業のCAPEXについてはどう考えればよいのでしょうか？キース、先ほど御社は今四半期でコミュニティホスピタルの支出が18%減少したことを認めています。病院はこの市場のクレジットを利用できるでしょうか？現時点での御社のCAPEXの予測はどの程度でしょうか？同四半期の状態を踏まえた御社の修正の値と本日では違いがありますか？

キース・シェリン - GE - CFO

幾つかのコミュニティホスピタルやその他の病院が、資金調達を目的にオークション市場のように公開市場にアクセスする動きが見られました。DRAの影響もありましたね、ニコル？

そしてこれは診療所だけでなく病院にも広がっています。弊社は、よりよい比較水準やランレートを備える第2、第3四半期に向かっていますが、臨床システムやモニタリング、その他フロー製品や小型品等の事業の動向に注意する必要があります。

我々のヘルスケア事業は、米国では画像診断や臨床システム事業による圧迫を今後も受け続け、米国外では堅調な成長を見せるというのが我々の見解でした。我々の範囲には第4四半期と第1四半期の状況、そしてその状況が継続するということを踏まえています。また、通年で比較水準は向上し、OECが出荷されるという事実も考慮しなければなりません。しかし病院では資本調達とCAPEXの面でプレッシャーを受け続けることになると思います、ニコル。具体的なCAPEXの値は持ち合わせておりません。申し訳ありません。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

しかしニコル、NEMAという画像診断市場を追跡する企業が、本年度下期には市場が8%拡大すると予測しています。一方、ジョーと彼のチームと検討した弊社の事業シナリオは、よくて横ばいという結果になりました。したがって弊社は、業界の人間が述べた画像診断に関する今後の見解を鵜呑みにしているわけではありません。

ニコル・パレント - クレジット・スイス社 - アナリスト

わかりました。それでは最後にインフラストラクチャー事業のマージンについてお伺いします。御社はさまざまな事情に基づいて考えられていますか？これは決して新しいものではありませんが、インフラストラクチャー事業では前年に比べマージンを拡大することができるかと考えていますか？

キース・シェリン - GE - CFO

私は可能と思っております。同四半期のインフラストラクチャー事業の業績をご覧頂くと、アビエーション以外の事業は全て上向きです。アビエーションの幾つかは厳しい比較となりました。私はエネルギー事業が今後弊社の弾みとなると思います。エネルギー事業はマージンを14.8%から16.1%に拡大させています。1.3%増です。石油・ガス事業はマージンを1.5ポイント引き上げました。輸送事業は今四半期にマージンを3ポイント引き上げています。したがってインフラストラクチャー事業ではマージンを拡大する機会があると思われるます。

これはエネルギー事業だけでなくベトコ社とスミス社によるシネルジーによって促進され、実現されることと思います。チームは同伴に全力で取り組んでいます。売上高を21%伸ばした同四半期では、営業利益を横ばいで維持しましたが、平均値より低いマージンでより多くの風力発電を販売しており、また買収の影響で希薄化され30~50ベースポイント低下しました。よって市場のプレッシャーを考慮しても設備・機器混合は3倍で、同事業は大変好調で将来的にはマージンを拡大させると考えられます。

ジェフ・イメルト - GE - CEO

弊社にはこれら全ての事業において価値の差も価格インフレーションの差もプラスです。ニコル。これが鍵です。

ニコル・パレント - クレジット・スイス社 - アナリスト

わかりました。最後にもう1つだけお願いします。通期の展開振りや上期の3月に学んだ重大さについて考える際に、御社は計画プロセスの見直しを検討されるのでしょうか？どう受け止めていますか？普通我々は過ちを犯すと、どうすべきだったのかと自問自答するものですよね。同伴について振り返った時、これに対する御社のお答えはどのようなものですか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

ニコル、私が12月に10%増について皆さんの前でお話する前には、計画作成に随分な時間を投じています。3月は本当に異常な状況が重なったと思います。コマーシャルファイナンスチームは長期に及び着実に目標を達成しており、弊社の中で最高のチームであることは皆様もご存知だと思います。

とはいえ、全て個人的な意見のように弊社について意固地になったり、何も学習できないわけではありません。我々は過去から学び、今後の会社経営に付いて考える方法の計算に入れます。我々はチームや戦略、事業に満足しており、通年の我々の計画を達成しなければなりません。

ニコル・パレント - クレジット・スイス社 - アナリスト

ありがとうございます。

オペレーター

メリル・リンチのジョン・イン様です。

ジョン・インチ - メリル・リンチ - アナリスト

ありがとうございます。ちょっと知りたいのですが、2.20～2.30ドルという値ですが、資産売却による非不動産利益がどの程度予測に含まれるのでしょうか？これについて私たちはどのように考えればよいのでしょうか？CPS事業は0.02ドルですが、その他の事業の売上を含むのかどうか分かりません。基本的には目標や範囲などはどのようなものでしょうか？

キース・シェリン - GE - CFO

不動産以外は、これらの株式資産の売却が構築されたビジネスモデルの一部とみなされるものの一つです。弊社には通年で予定される他のフロー取引がありますが、大きな取引項目は持ち合わせていません。ジョン、PLCCは弊社が取り組んでいる最大の事業開発で、これによる利益が見込まれますが、非継続事業となる予定です。したがって弊社は不動産モデルに最も焦点を置いています。一方、依然として証券化や、GE Capital内の他の資産の売却も計画されていますが、コアとなるフロー事業があると言えるでしょう。

弊社は金融サービスの再配置を続けます。また、幾つかの設備・機器サービスの再配置にも取り組んでいます。これによって上向傾向が生じます。一方GE

Moneyの方では、先程申し上げた通り、資本の売却処分が行われる予定で、これによって部分的に引当金、そして第1四半期に行われた法人カード事業の証券化の比較に対する資金となることが予測されています。それに関する具体的な数字は持ち合わせていません。

ジョン・インチ - メリル・リンチ - アナリスト

結構です。しかし基本的に御社は2.20ドルから2.30ドルの低価格帯を狙っているようですが、PLCC事業を売却するとすると、これは0.04ドルの利益と言われましたか？

キース・シェリン - GE - CFO

いいえ、私がPLCCについて申し上げたのは違います。弊社のガイダンスを見ると、あなたはPLCCが売却される場合、通年のEPSの2.20～2.30ドルの内の0.04ドルにあたると言われましたが、これは取り除かれるべきです。

ジョン・インチ - メリル・リンチ - アナリスト

それではPLCCによる利益は数字にならないということですか？

キース・シェリン - GE - CFO

はい、その通りです。わかりやすく申し上げることができずに申し訳ありません。

ジョン・インチ - メリル・リンチ - アナリスト

はい。やっとわかりました。あと2、3、簡単な質問をさせていただきます。

それではヘルスケア事業の誤りについて話題を戻します。現在経済が厳しい状況ことは誰にとっても明らかですが、ジェフ、御社は経営側の変更は検討されていますか。いや必ずしも上級管理職の交替でなく、他の事業上或いは構造上の変更、今後2、3年に事業の焦点を変えろといった構造的な大改革はお考えですか？また、現在GEの背後で何が起きているかについて、私たちはどのようにとらえるべきでしょう？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

弊社は初めからヘルスケア事業には満足していました。同事業がおかれる位置付け、企業の地理的な位置づけには満足しており、長い期間にわたり堅調な業績を上げています。ジョン、もう一度申し上げますが、市場が原因となるものと、出来栄が悪かったものがあると思います。FDAにより工場が20ヶ月間も閉鎖されたことは大変不満に感じております。これは我々に責任があり、関連する経営側の変更を既に行っています。社員が実績を出さない場合でも我々は一生懸命に取り組んでいます。一連の役員や各年の年次報告をご覧頂くとおわかりになるよ

うに、毎年異なるグループがあります。社員は残るためには結果を出さなければなりません。よって弊社はヘルスケア事業のフランチャイズ化を信じており、この工場を再開させなければならないと思っています。これが達成されれば、2008年にはうまく行く事業だと思っています。

ジョン・インチ – メリル・リンチ – アナリスト

最後に、キース、トリプルAの格付けについて御社はどうお考えですか？あなたの判断では...金融サービスの市況を考慮すると、トリプルAの格付けを失うリスクはありますか？ または弊社はかなりよい状態にあって、格付けを保持できるとお考えですか？

キース・シェリン - GE - CFO

はい、弊社は自信があります。我々には弊社の管理職やGE Capitalにおける活動、さらにはトリプルAとして会社を運営する資本委員会に対する取締役会からの大変厳しい経営基準があります。また弊社には非常に優れたリスク管理プロセスがあります。流動性プロファイルも優れています。格付け会社とは、世界の様々な件に関して毎週連絡をとっています。格付け会社のどちらも弊社の位置づけを理解しており、現在そして今後も弊社のトリプルAの格付けを維持することを支持しています。

弊社は安全性とセキュリティを第一とした資金調達に信念を置いています。そのために我々は通年の債務計画を立てています。弊社には800億ドルに及ぶ長期債務の通年計画がありました。第1四半期には350億ドルが投じられています。市場はかなり厳しい状態ですが、我々計画していた債務取引の幾つかを適宜事前に行っています。コマーシャルペーパーに付いては、1,000億前後の収支を維持するために、大変厳しい運用基準を守っています。同四半期は1020億ドルで終わっています。コマーシャルペーパーを増やすことも可能でしたが、我々は弊社の流動性に関する全てのバックアッププランに完全に沿ったある一定の水準を維持することを選びました。また、いかなる一時的な混乱にも対応するキャッシュ残高と流動性に関する計画を備えています。弊社は事業やその基礎となるビジネスモデルに大変満足しており、格付け会社もそれに同意しています、ジョン。

ジョン・インチ – メリル・リンチ – アナリスト

わかりました、どうもありがとうございます。

オペレーター

ベア・スターンズのアン・ドゥイグナン様です。

アン・ドゥイグナン – ベア・スターンズ – アナリスト

皆さん、おはようございます。ベア・スターンズの社員として御社に与えた影響を考えると、本日は厳しい1日です。それでは手短かに1つだけフォローアップの質問です。少々興味があるのですが、御社の現在の見通しでは税率が16%ですが、当初のガイダンスでは18%でしたよね。これは正しい値ですか？それとも私が聞き間違えたのでしょうか？

キース・シェリン - GE - CFO

いいえ、それは正しい値です。

アン・ドゥイグナン – ベア・スターンズ – アナリスト

わかりました。2008年のフレームワークの改訂版では触れていませんでしたが、これはプラスの影響であったのではないのでしょうか？

キース・シェリン - GE - CFO

弊社は18%から16%に改めています。EPSのガイダンスの改訂版をご覧頂くと、金融サービス収益の減少には税率が下がった影響が含まれています。

アン・ドゥイグナン – ペア・スターズ – アナリスト

わかりました。それだったのですね。

キース・シェリン - GE - CFO

金融サービスのEPSの範囲にはこれが考慮されています。

アン・ドゥイグナン – ペア・スターズ – アナリスト

わかりました。私からの殆どの質問は既に回答されているようです。しかし、先ほど西欧や米国以外の場所では長期サイクルの事業に著しい減速は見られないと話されていましたが、ヨーロッパ、特に西欧ではGE Moneyなどはどのような見通しですか？何か連鎖反応はありますか？世界の他の地域においても連鎖反応が予想されますか？

キース・シェリン - GE - CFO

GE

Moneyにおいて、支払延滞率の増加が見られたのはイギリスの担保帳だけでした。これは弊社の1グループの住宅帳簿です。ここでは支払い延滞率が増加して、およそ14%程です。過去3年の間に17%、18%まで上昇したこともあります。グローバルで支払延滞率が増加したのはこの一つです。この帳簿にはローリング効果のある損失はありません。

弊社のLTVのエクスポージャーは大変低くなっています。80%を超えると何時でも使う住宅ローン保険があります。弊社は、これら全てのローンを消費者がどのように借りているかに基づき、彼らに影響を与え得るできる限り高いレートで引受けています。我々の大変優れたビジネスチームは、WMCで学んださまざまな教訓をよく検討し、これらすべてがグローバルの住宅ローン事業で適用されていることを確認しています。ですから我々はかなりいい状態にあると思います。GE

Moneyのグローバルでは、米国以外、及びイギリスの担保帳以外の支払延滞率は減少しています。アメリカ大陸での現在のプレッシャーを除くと、GE Moneyではグローバルのバランスシート上の資産の質にはかなり満足しています、アン。

アン・ドゥイグナン – ペア・スターズ – アナリスト

わかりました、最後にもう1つフォローアップの質問ですが、航空宇宙事業のコマーシャルアフターマーケットは今四半期で3%減とおっしゃっていたと思います。それでは、燃料価格の上昇や今航空宇宙産業で起きている全ての複雑性を考慮すると、同事業にリスクはありますか？設備・機器自体の需要は世界で好調を続けていますが、アフターマーケットについてはどうですか？特に米国では活動の減速が見られ始めているようですが。

キース・シェリン - GE - CFO

全体を見てみると、まず、過去2〜3週間の間に幾つかの航空会社が倒産しています。まず1つに、弊社にはこれらの会社に対する大きなエクスポージャーはありません。弊社の全ては比較的新しい飛行機によって守られています。倒産した2つの会社の総額は約1億ドル程だったと思います。弊社はグレートプレーンズで大変好位置につけています。

我々のアフターマーケット業績を牽引するのは、乗客マイルの売上高成長です、アン。乗客マイルの売上高は今四半期に4.5%増でした。飛行機は飛んでいて、飛び続けている限り、弊社はさらに多くのメンテナンスを行うこととなります。プレッシャーを受けているのは、旧型で燃費の悪いエンジンで、これは我々のミックスで大きな割合を占めていません。弊社はさらに新しい航空機を数多く備えています。

二番目に、グローバルな需要によって、弊社は十分な航空機を調達できていません。ATA航空やアロハ航空の倒産に関する記事を読まると、実感がわかないかもしれませんが、これは事実です。ヘンリー・ヒュブシュマンと彼のチームはさらに多くの航空機を使うことができました。我々の受注帳簿は2009年まで発注済で、2010年分も殆どの新たな航空機がエアバス社とボーイング社向けに発注されていると思います。したがってグローバルな需要は驚くほど力強いものがあります。航空機の価値も上がっており、燃料が原因となって財政的な圧迫を受けている航空会社と今後対処する必要があります。過去10年の間にこのようなサイクルは何度も見えています。弊社はこれに関して大変満足していますが、もちろん注意する必要があります。

アン・ドゥイグナン - ペア・スターズ - アナリスト

わかりました。ありがとうございます。他の質問はオフラインにします。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

メラニー、それでは最後の質問にしたいと思います。

オペレーター

ドイツ銀行のニゲール コー様です。

ニゲール・コー - ドイツ銀行 - アナリスト

ありがとう。45分間の質疑応答があり、厳しい質問に対するあなた方のスタミナに感心しております。御社の株は最初の1時間で11%減です。市場は既に通年の2.20ドルに設定されているようです。ここでの下降傾向は、インフラストラクチャー事業に何かが起こればの場合で、2008年が確定していることにもほぼ同意しますが、受注額は今四半期で多少減っています。波があるのは理解していますし、それが理由だったかもしれません。しかしこの厳しいクレジットの市況またはグローバルな成長の減速が製品の先送りまたは中止などを生み出し、今後受注が軟化する兆しはありませんか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

そのような様子は見られません。受注額に関するいくつかの数字を挙げてみます。その上で次の段階に関する私の考えをお話したいと思います。インフラストラクチャー事業のドル建て受注額を見ると11%増で、我々が平均的に達している30%ではありません。しかし、前年度第1四半期の主要設備・機器の受注額は105億ドル、第2四半期は128億ドル、第3四半期は138億ドルで、各四半期毎に売上高を1.2~1.4倍にし、驚くほどの受注残高を築いています。前年度の受注額合計は29%増の500億ドルで、今年の受注額の絶対水準である第1四半期の117億ドルは、厳しい比較に対し11%増です。大きなプラス要素は、ガスタービンの受注が米国で少しずつ増えていることです。

第1四半期では受注39台のうち米国向けは4台であったと思います。また、米国におけるエネルギー原動力、需要・供給、更なる生産能力へのニーズ、環境規制、原子力発電所設置の難しさ、また可能な限り多くの風力発電タービンを販売していることをご覧頂くと、米国でのガスタービンの販売は今後も続くと思われます。また、同事業では価格が物価インフレーションよりも高くなっており、よい状態にあると感じています。絶対とは言えませんが、同事業は私のGEでの経験の中で最も維持可能なサイクルの長い、プラスの売上高を生成する事業です。

ニゲール・コー - ドイツ銀行 - アナリスト

わかりました、それでは幾つかの受注の指標について、活動の軟化や申し出、これらはすべて同段階での御社の予測と一貫するものですか？

ジェフ・イメルト - GE - CEO

エネルギー事業は素晴らしい業績が続くと思われます。石油・ガス事業も引き続き大変好調だと思います。アビエーションでは、基本的にはエアバスとボーイングが2011年、2012年までフルの製造状態であるため、波が見られると思います。よってニゲール、ここでは787型の遅延やエアバスの納品延期といったフルの状態を基に平均化することを期待しなければなりません。それはアビエーションの平均化が見据えなければならぬと言われるところですが、弊社にとっては大変よい数字に平均化されています。

ニゲール・コー - ドイツ銀行 - アナリスト

わかりました。それでは2つだけ簡単な質問を。物価のインフレーションの価格差はいまだにプラスですが、前年度下期より更に狭くなっており、鋼鉄の価格は正常です。この価格差幅に関して今年度上期はどうされていますか？

キース・シェリン - GE - CFO

弊社にはインフラストラクチャー事業では依然としてプラスの価格差があります。価格浸食がインフレーションを相殺しないヘルスケア事業では、いまだにプレッシャーがあると思います。よって我々はインダストリアル部門の価格差を幾分復帰させなければなりません。ですから、インフラストラクチャー事業は会社全体で見て強みです。弊社の物価インフレーションの差は通年でプラスでしたが、それはインフラストラクチャー事業によって牽引されることを我々は期待しております。

ニゲール・コー - ドイツ銀行 - アナリスト

わかりました。それでは最後に準備段階の保険事業の件ですが、同事業の証券で含み損があります。これらは満期目的の有価証券であり、値洗いではありませんが、これを実現損にするには何が起こらなければならないのでしょうか？

キース・シェリン - GE - CFO

基本的に投資有価証券ポートフォリオでは、有価証券は一時的に減損されるもの以外であることを確定しなければなりません。我々には四半期ごとに有価証券の内容を検査するプロセスがあり、弊社のキャッシュフロー引受ディスカウントを行っています。我々はクレジットの問題なのか或いは市場の問題なのか、どの程度の間表に出ていなかったのかについて調べ、一時的以外の減損を定期的に組み入れ、運営基準を守ったプロセスに基づき損益計算書に計上しています。弊社は同ポートフォリオを所有して以来長年に亘ってこの作業を続けています。

ニゲール・コー - ドイツ銀行 - アナリスト

どうもありがとうございました。

ダン・ジャンキ - GE - インベスターコミュニケーションズ・バイス・プレジデント

それでは、皆様本日はご参加いただきありがとうございました。本日は終日ジョアナと当方が皆様からのご質問を承っております。また、本日の議事録とテープは弊社のウェブサイト参照頂けます。改めまして、ありがとうございました。

オペレーター

皆様、これもちまして本日のコンファレンス・コールを終了いたします。本日はご出席いただきありがとうございました。電話を切ることができます。さようなら。

免責条項

Thomson

Financial

は、このウェブサイトに変更を加えた何人といえども事前の通知なく本ウェブサイトに掲載の文書、内容、またはたの情報を変更する権利を留保します。

イベント議事録が作成されたコンファレンス・コールにおいては、企業はいかなる項目に関しても企画または事業見解声明を作成することができます。事業見解声明は、予期される状況およびリスクを伴う可能性および予期せぬ状況に基づきます。実際の業績は、さまざまな重要な要因およびリスクに基づいて作成される業績見通し声明のそれとは実質的に異なる場合があります。実際の業績は当事企業の最新の証券委員会への申告書により具体的に明記されています。事業見解声明は当事企業の独自の判断に基づいたものであり、不正確あるいは不適切である場合があります。したがって、事業見解声明の予想業績の正確性を保証するものではありません。

イベント議事録に記載されている情報は、コンファレンス・コールにおいて当事企業から得たものを原文のまま記録したものです。正確なトランスクリプトを提供するよう心がけておりますが、コンファレンス・コールの内容において実質的な不手際が生じる場合のあることをご了承ください。THOMSON FINANCIALまたは当該企業は、このウェブサイトまたはいかなるイベント議事録に掲載されている情報に基づいたいかなる投資または決定に対して一切の責任を負いません。ユーザーの方は、いかなる投資および決定をする前に当事企業のコンファレンス・コールおよび証券取引委員会への申告書を精査されることをお勧めします。

© 2005, Thomson StreetEvents All Rights Reserved.